

平成23年度研究科横断型教育プログラム(Aタイプ)授業科目

担当研究科名		公共政策大学院		横断区分	文系横断型	開講場所	公共第3演習室(総合研究2号館2F)		
授業科目名		通商産業政策 Trade Policy and Industrial Policy			講義担当者 所属・氏名	公共政策教育部・ 教授(特)・佐伯 英隆			
配当 学年	専門職、 修士、 博士後期	単位 数	2単位	開講 期	前期	曜時 限	水3限 (1:00~2:30)	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>本講座は、</p> <p>①そもそも「産業政策」なるものが必要なのか、有効なのかという課題から出発し、</p> <p>②戦後のわが国の産業構造の変遷を俯瞰し、</p> <p>③産業構造の高度化過程における産業政策の役割と限界を論じ、</p> <p>④各国の産業政策を比較・検討し</p> <p>⑤同時に通商政策との連携と</p> <p>⑥通商政策意思決定過程における政・官・民の機能と相互関係の検討等を通じて、</p> <p>⑦産業経済の内外一体化、「グローバル化」と称されるものの実態と功罪を把握することを目的とする。受講者には講義全体の流れの中で、「国が富む、国が強くなる」ということはどういう事なのかということを考えるきっかけを掴んでもらいたいと考えている。</p>									
<p>【研究科横断型教育の概要・目的】</p> <p>学問的な「真理」よりもむしろ「具体的成果と結果からみた判断の正しさ」を要求される通商・産業政策の遂行に必要な素養と手法は、法学、政治学、経済学、行政学等の各分野での専門家より、各分野を総合的・包括的に把握し限定された時間の中で適切な判断が下せるといふ「専門家」を必要とする。その意味で、本講座は研究科横断型講座に該当する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
各事項について概ね2回程度の講義を行い、終盤において受講者に課題を与えて討議形式の授業を行いたいと考えているが、若干の変更はありうる。									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
授業の中盤と終盤においてそれぞれ一度ずつ(計二回)レポートを課す。平常点を加味する。									
〔教科書〕									
特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
<p>強国論(D.S.ランディス 著 竹中平蔵 訳 三笠書房)</p> <p>文明の衝突(S. ハンチントン 著 鈴木主税 訳 集英社)</p> <p>(白書)通商白書 2006年版(経済産業省 通商政策局 篇)</p> <p>(白書)中小企業白書 2006年版(経済産業省 中小企業庁 篇)</p>									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
特になし									